

# 看護実践能力向上を目指した卒業時看護技術演習の取り組み

## －「自己の課題シート」に見られた総合技術演習の修学状況－

清水恵子、萩原結花、村松照美、大久保ひろ美、小林たつ子、簗持知恵子、吉田文子、河野由乃、松下由美子（平成20年度看護実践力推進プロジェクト）

### 要 旨

研究目的は、A大学看護学部生の看護実践能力向上を目指して実施した卒業時看護技術演習の「総合技術演習」（以下、演習）について、「自己の課題シート」の分析から修学状況を明らかにすることである。対象は文書同意が得られた4年生47名で、分析方法は、「自己の課題シート」の「演習後の技術の達成状況」は単純集計し、演習前に記載した「自己の課題」「課題達成のための学習方法」、演習後に記載した「今後必要とする自己の取り組み」は、項目ごとにコードを抽出し、意味内容の類似したものをカテゴリー化した。結果は、①演習後の技術の達成状況は、肯定的回答40.4%、否定的回答44.7%であった。②自己の課題内容は、演習後により具体的となり、＜複数の患者の把握と配慮＞＜患者の立場にたった対応＞＜一連の看護行為の確実な実施＞＜チームとしての連携・協力＞＜状況判断やよく考えた行動＞＜看護師としての責任のある態度＞の6個のカテゴリーに整理された。

キーワード：看護実践能力 卒業時看護技術演習 自己の課題シート

### I. はじめに

平成16年に示された「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」は、新卒者の中には、就職後、自信が持てないまま不安の中で業務を行っており、リアリティショックを受ける者や、高度な医療を提供する現場についていけないため早期離職する者もいると報告し<sup>1)</sup>、卒業までに一定レベルの看護実践能力の修得を保証できる体制づくりが、看護系大学の課題であると指摘している。

A大学看護学部では、看護実践能力向上のための取り組みとして平成17年度から「卒業までに修得すべき看護技術項目リスト」及び「卒業までに修得すべき看護技術項目チェック表」を作成し、臨地実習において修得する看護技術について実習施設と連携・協働の強化を図ってきた。

看護基礎教育で修得する看護技術と臨床現場で求められるものにはギャップがあるとされ

る中、平成18年度からは卒業時看護技術演習を開始させ、平成19年度の卒業時看護技術演習では、臨床現場において、新卒看護師が入職後求められる患者状況に応じて優先度を考慮した対処行動や安全に配慮した行動を体験させる「総合技術演習」（以下、演習）を加えた。それらの取り組みや経過、成果については学会等で報告<sup>2)3)4)</sup>してきた。

平成20年度の卒業時看護技術演習では、それまでの企画に加え、学生が主体的に演習に参加できることと卒業後に向けて取り組む課題が見出せることを期待して、自己の課題が記載できる「自己の課題シート」を考案し活用した。今回、演習に参加した学生が記述した「自己の課題シート」の分析より演習の修学状況を検討したので報告する。

### II. 研究目的

A大学看護学部生の看護実践能力向上を目指

(所 属)

山梨県立大学看護学部

(専攻分野)

すために実施した卒業時看護技術演習の中の「総合技術演習」について、学生が記述した「自己の課題シート」の分析より修学状況を明らかにする。

### III. 研究方法

1. 対象：A大学 看護学部4年生 47名

#### 2. 卒業時看護技術演習の概要

1) 卒業時看護技術演習の企画と演習項目

卒業時看護技術演習(本演習)の看護技術項目を選定するに当たっては、本演習で取り組みたい項目を希望調査し企画を検討した。

(1)本演習の目的

学内実習や臨地実習において未修得の技術項目ならびに身体侵襲を伴う技術項目について自己の課題を明確にし、本演習を通して看護技術とその学習方法を修得することにより、看護実践者として自己の看護実践能力を高める機会とする。

(2)本演習の目標

- ①技術項目に共通な評価基準9項目<sup>\*</sup>を踏まえて、既習の看護技術をふりかえり自己の課題を明確にできる。
- ②本演習で実施する基本技術の必要性和根拠を理解し、基本動作が確実に実施できる。
- ③模擬臨床現場の状況に応じた判断ができ優先順位や安全に配慮した援助行動がとれる。
- ④本演習を通して自分なりの学習方法を見出すと共に、看護実践能力を高めるための今後の課題を明確にできる。

<sup>\*</sup>技術項目に共通な評価基準項目(9項目)

- ①意義、必要性、根拠が言える
- ②方法と留意点が言える
- ③安全、安楽に実施できる
- ④その人らしさの配慮ができる
- ⑤十分な説明を行い、同意を得ることができる
- ⑥プライバシーの保護ができる

- ⑦結果や効果の判断をすることができる
- ⑧判断に基づいて必要な対処行動を取ることができる
- ⑨必要に応じて対象への教育ができる

(3)本演習内容

本演習の主な構成は、導尿及び膀胱留置カテーテル管理、筋肉内注射、静脈内採血(真空管)、点滴静脈内注射の管理など、卒業までに修得すべき看護技術の実践能力向上をねらいとした「基本技術演習」、複数の患者状況に応じた優先順位や安全への配慮の視点に気づくことをねらいとした「総合技術演習」とした。

(4)自己の課題シート(資料1)

「自己の課題シート」とは、本演習に学生が主体的に参加し、事前・事後の課題を言語化できることをねらいとして、A大学看護学部の看護実践力推進プロジェクトが独自に考案したA4大、横仕様のシートである。基本技術演習の細項目と総合技術演習のそれぞれについて、演習当日までに、「自己の課題」、「課題達成のための学習方法」の項目について自由に記載できるよう空欄が設けられている。演習後には、「演習後の技術の達成状況」を4段階で評価し、「今後必要とする自己の取り組み」の項目については自由に記載できるよう空欄が設けられている。

2)「総合技術演習」の方法

模擬臨床場面において看護ケアを妨げる多重課題を設定し、多床室患者の優先順位や安全に配慮した援助行動がとれるようにした。教員は患者役割や指導者役割をとり、実施後はグループ単位でふりかえりを行ない、支援・指導にあたった。また、教材は安全面から身体侵襲が加わる場所ではモデルを使用した。

#### 3. データ収集方法

1) 事前のオリエンテーションでは、本演習の目的、目標、方法の説明の中で、「自己の課題シート」を配布し、活用のねらいと方法について説明した。

- 2) 演習当日には、「自己の課題」「課題達成のための学習方法」の空欄に、自由に記載して演習に参加するよう指導した。
- 3) 演習後は、その場で「自己の課題シート」に記載するよう指導した。「演習後の技術の達成状況」は「達成できた」4点、「まあまあ達成できた」3点、「あまり達成できなかった」2点、「達成できなかった」1点の4段階で評価した。「今後必要とする自己の取り組み」の空欄には自由に記載し、提出するよう指導した。
- 4) 提出された「自己の課題シート」はコピーをとり、原本は学生に返却し、卒業後の自己の課題として活用するよう説明した。

#### 4. テータ収集期間：平成21年3月2日～6日

#### 5. 分析方法

- 1) 「演習後の技術の達成状況」は4段階の選択肢ごと単純集計した。
- 2) 演習前に記載した「自己の課題」「課題達成のための学習方法」、演習後に記載した「今後必要とする自己の取り組み」は、項目ごとにコードを抽出し、意味内容の類似したものをカテゴリーとして整理した。
- 3) 複数の共同研究者で分析し「データの信頼性」を担保した。

#### 6. 倫理的配慮

- 1) 演習初日のオリエンテーション時には演習開始にあたって、①各看護技術の「自己の課題シート」の提出およびコピー、②最終日のアンケートへの回答の内容、これらを教員が教育・研究活動および広報活動に活用することに関して協力を依頼し、書面による同意を得た。
- 2) 個人情報の扱いに関して「自己の課題シート」の分析結果は匿名化・数量化し、個人名が特定できないようプライバシーが確保されること、また、研究目的以外に使用しないことを説明し同意を得た。

- 3) 演習への参加、「自己の課題シート」及びアンケートの提出については、同意後も自由意志で取りやめることができることを説明した。

#### V. 結果

結果は、演習前と演習後に区分して説明した。「自己の課題シート」の記載内容について各々をカテゴリー化した。[ ]はシートの項目を、< >はカテゴリーを、「 」はシートの記載内容よりコードとして抽出したことがらを示した。

##### 1. 演習前

###### 1) 演習前の自己の課題 (資料2)

[演習前の自己の課題]の記載内容より抽出したコードは63件で、<対象に応じた対応><一連の看護行為の確実な実施><自己の安全を考慮した対応>の3個のカテゴリーに整理することができた。

<対象に応じた対応>として、「患者の優先順位や安全に配慮して援助を行なう」が最も多く20件であった。次いで、「患者の状態や状況に応じて判断し、適切なケアを行なう」「患者の安全や予測される事態を考え実施する」がそれぞれ5件で、学生は状況に応じた判断や予測される事態を考慮してケアを実施することを重視していた。また「ケアの重要度、必要度を比較し、優先順位をつける」「複数の患者の状態や状況を把握し、必要な看護ケアを判断する」はそれぞれ4件であった。

<一連の看護行為の確実な実施>として、「患者に声かけをし、安全、安楽に行なう」「患者に処置の必要性や目的・方法を説明し、理解を得てから実施する」は、患者の看護ケアにあたっては、声かけや理解を得るための説明、安全、安楽、苦痛を最小限とするなど、患者の立場に立って実施することを課題としていた。その他、「落ち着いて処置を行なう」「処置をスムーズに行なう」「迅速にケアを行なう」「動作の効率性を考える」「臨機応変に行動できる」などが挙げられた。

<自己の安全を考慮した対応>として、「自

分も安全に行なう」「自身の腰痛を予防するようにボディメカニクスを効果的に行なう」が挙げられた。

2) 課題達成のための学習方法 (資料3)

[課題達成のための学習方法]の記載内容より抽出したコードは24件で、<振り返り・自己の課題の明確化><事前の学び><修得する方法の明確化>の3個のカテゴリーに整理することができた。

<振り返り・自己の課題の明確化>として、「グループメンバーとふりかえりをする」が最も多く8件であった。次いで、「今まで学習してきたことを思い出し、確認しながら行なう」は3件、「困難な状況下での自己の行動パターンを把握し、苦手なところを知る」3件、「技術を正確に行なう」2件であった。

<事前の学び>としては、「参考書、教科書を利用して一つ一つ確認する」「事前にイメージトレーニングや物品の配置を考える」などが挙げられた。

<修得する方法の明確化>としては「ふりかえる中で、様々な場面での対処方法を修得する」「さまざまな訴えや現象に対する判断・行動について考えながら学ぶ」などが挙げられた。

2. 演習後

1) 演習後の技術の達成状況 (表1)

演習後の技術の達成状況については、「達成できた」「まあまあ達成できた」と肯定的な回答をした学生は19名で全体の40.4%で、「あまり達成できなかった」と否定的な回答した学生は21名で44.7%であった。達成状況に対しては、否定的な回答が肯定的な回答をやや上回った。

表1 総合技術演習後の技術の達成状況

	n=47	
	人数	割合 (%)
達成できた	1	2.1
まあまあ達成できた	18	38.3
あまり達成できなかった	21	44.7
達成できなかった	0	0.0
未回答	7	14.9
計	47	100.0

2) 今後必要とする自己の取り組み (資料4-1, 4-2)

[今後必要とする自己の取り組み]の記載内容より抽出したコードは139件であった。それらのうち[課題内容]は67件で、[具体的な取り組み]は72件であった。これらは明確に区別されるものではなかったが、今後の目標となったものや、考え方・姿勢を示したものは[課題内容]に、一方それらに対して具体的に行動化できることや、働きかけや行為を示したものは[具体的な取り組み]として整理した。

それぞれ記載された内容は、<複数の患者の把握と配慮><患者の立場にたった対応><一連の看護行為の確実な実施><チームとしての連携・協力><状況判断やよく考えた行動><看護師としての責任のある態度>の6個のカテゴリーに整理することができた。

[課題内容]としては、<複数の患者の把握と配慮>が21件と最も多く、「受け持ち患者のみでなく、他患者への配慮や状態の把握をする」(20件)に代表された。

<チームとしての連携・協力>が15件で、「看護師同士の連携(やりとり)をしっかりとる」(8件)「看護師が病室にいる場合、何をしているか把握する」(5件)『「チームで働く」意識を持ち、一人で対処しようとせずチームで協力し合う」(2件)であった。

<患者の立場にたった対応>は12件で、「ケアにあたっては、患者の立場に立って考え対応をする」(5件)「優先順位は『自分にとって』ではなく、『患者の立場にたつて』考える」(3件)に代表された。

<看護師としての責任ある態度>は10件で、「信頼関係に影響するので、自分の発言に責任を持たなければならない」(4件)「自分の仕事や患者に対して責任を持つ」(2件)「自分の処置だけでいっばいになるのではなく、周りを見る余裕を持てるようになる」(2件)に代表された。

<一連の看護行為の確実な実施>は5件で、「清潔操作を正確に実施する」(3件)「薬液を吸

い上げる動作をすばやく行なえるようになる」(1件)「ケア実施中、患者の状態観察と適切な指示を行なう」(1件)で、「筋肉内注射」の注射準備段階の基本動作を課題としていた。

〈状況判断やよく考えた行動〉は4件で、「予測的に行動する」(2件)「患者が表す細かなサインを見落とさないようにする」(1件)「広い視野と判断力が必要である」(1件)であった。

〔具体的な取り組み〕としては、〈患者の立場にたった対応〉が18件と最も多く、「患者への説明を分かりやすく行なう」(4件)「待たせる時、『ちょっと待ってください』ではなく、理由を説明し了解を得る」(4件)「笑顔で対応する」(3件)「患者が看護師に声をかけるには勇気があること、患者には直ぐ返事をする」(2件)「あせりや緊張は患者に伝わるので、落ち着いて一呼吸おいて冷静に行動する」(2件)に代表された。

〈チームとしての連携・協力〉が15件で、「看護師同士で協力し合えるようコミュニケーションをとる」(8件)「困った時一人で何とかしようと思わず、周りの看護師の助けを受ける」(5件)に代表された。

〈複数の患者の把握と配慮〉が14件で、「病室全体の様子を見る、病室全体にアンテナを向ける」(6件)「入室時は、患者一人ひとりの顔、状態を観察する習慣をもつ」(3件)「退室時は、患者それぞれを確認するようにする」(2件)「事前の情報を踏まえ優先順位をあらかじめつけておく」(2件)に代表された。

〈一連の看護行為の確実な実施〉は10件で、「5Rの確認を3回以上実施する」(2件)「機材や薬品は、常に目の届く範囲に配置し直す」(2件)「処置に入る時は、その場を長時間離れない」(1件)「一旦場を離れて処置に戻った際、患者や薬剤を再度確認してから実施する」(1件)などで、確認や安全を確保する方法について課題としていた。

〈状況判断やよく考えた行動〉は8件であった。「その場の状況に応じて、自分でできることと、今できないことを的確に判断する」(4件)

「現在の状況から、今何をしなければならないかを判断する」(1件)「自分で考える習慣をつける」(1件)「その都度、自分でふりかえをする」(1件)などであった。

〈看護師としての責任ある態度〉は7件で、「1処置1手洗いを心がけ、自分の安全を守っていく」(3件)「不安なことや分からないことは先輩ナースに聞き、確認する」(2件)「落ち着いて行動する」(2件)であった。

## V. 考察

### 1. 演習前の自己の課題および学習方法について

演習前の自己の課題については、各学生で様々であったが、「患者の優先順位や安全に配慮して援助を行なう」を課題としてあげた者が最も多かった。これは総合技術演習の目標であることから、学生の多くは本演習の目標を自己の課題として捉えていたといえる。次いで、「患者の状態や状況に応じて判断し、適切なケアを行なう」「患者の安全や予測される事態を考え実施する」が多く、学生は状況に応じた判断や予測される事態を考慮してケアを実施することを重視していたと考えられる。

課題達成のための学習方法については、「グループメンバーとふりかえりをする」が多かったことは、事前のオリエンテーションで総合技術演習の学び方について説明したことが関係しているといえる。「困難な状況下での自己の行動パターンを把握し、苦手なところを知る」については、援助者としての自己理解の姿勢に通じるものであり、重要な視点といえるのではないだろうか。

### 2. 演習後の技術の達成状況について

技術の達成状況については、否定的な回答が肯定的な回答をやや上回っていた。本間ら<sup>5)</sup>の研究によると、模擬患者の有効性について「かなり、ある程度役立った」と評価した学生は、1回の学生が57%であったのが、2回、3回以上と経験した学生は90%前後が役立ったと回答していた。A大学看護学部の模擬臨床場面を

設定した演習は1回であり、緊張した環境下であった事が、達成状況について否定的な回答がやや上回った結果に繋がったと考えられる。

### 3. 演習前後の自己の課題の変化について

演習前後の課題内容を比較すると実施後には、具体的な取り組みとして、＜患者の立場にたった対応＞をあげ、「患者への説明を分かりやすく行なう」「待たせる時、『ちょっと待ってください』ではなく、理由を説明し了解を得る」「笑顔で対応する」「患者が看護師に声をかけるには勇気がいること、患者には直ぐ返事をする」「あせりや緊張は患者に伝わるので、落ち着いて一呼吸おいて冷静に行動する」など、課題内容が具体的な内容へと変わっていた。

基礎看護技術演習における体験学習は、看護師と患者の互いの役割を通して看護者の役割意思の育成や患者の気持ちが理解できる学習の機会であり、より実践に近い学習が可能であるとされる<sup>6)</sup>。演習後にこれらの具体的な取り組みがだされたことは、模擬臨床場面の状況下で体験したからこそ導き出された課題と考える。さらに、学生は、演習の体験から、卒業後に出向く臨床現場を＜複数の患者の把握と配慮＞＜患者の立場にたった対応＞＜一連の看護行為の確実な実施＞が求められた場と判断し、そのためには、＜チームとしての連携・協力＞が重要になると考えていた。これは、その時その場で＜状況判断やよく考えた行動＞をとることで、＜看護師としての責任ある態度＞を身につけようという意識が強く働いたのではないだろうか。

また、学生は演習後の課題内容として、＜複数の患者の把握と配慮＞を最も多くあげており、具体的には「受け持ち患者のみでなく、他患者への配慮や状態の把握をする」に代表された。また「ケアの重要度、必要度を比較し、優先順位をつける」「複数の患者の状態や状況を把握し、必要な看護ケアを判断する」など、学生は複数の患者のケアにあたっては、ケアの必要度、重要度から優先順位を検討しなければならないと捉えていた。これは、模擬体験の意味

として、最優先される患者の安全を第1に考える機会であり、行動や判断など手順を迫る練習にない体験が出来ると考えられる。緊張させる状況で判断する体験はリアリティショックの予備体験の意味があるとされ<sup>5)</sup>、今回の総合技術演習の多重課題のように臨床現場で遭遇するさまざまな状況に対し優先順位を判断し根拠をもって対処する行動を考える機会であったと考えられる。

## VI. 結論

1. 自己の課題内容は、演習前に比べ演習後がより具体的となった。
2. 演習後の具体的な自己の課題内容は、＜複数の患者の把握と配慮＞＜患者の立場にたった対応＞＜一連の看護行為の確実な実施＞＜チームとしての連携・協力＞＜状況判断やよく考えた行動＞＜看護師としての責任のある態度＞の6個のカテゴリーに整理された。
3. 演習後の技術の達成状況は、肯定的回答40.4%、否定的回答44.7%であった。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省:看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標、看護学教育の在り方に関する検討会報告,2004.
- 2) 遠藤みどり,石田貞代,松下由美子他:看護実践能力向上のための取り組み-臨地実習での看護技術項目リスト・チェック表の活用-,山梨県立大学看護学部紀要,9(1),43-54,2007.
- 3) 村松照美,清水恵子,小林たつ子他:看護実践能力向上を目指した取り組みに関する研究-卒業時看護技術演習の実施結果から-,山梨看護学会誌,15(1),46-47,2007.
- 4) 清水恵子,村松照美,萩原結花 他:看護実践能力を目指した「卒業時看護技術演習」の取り組みと成果,看護教育,第39回,27-29,2008.
- 5) 本間明子,荒井淑子,倉井佳子:複数の模擬患者に対応する卒業前看護技術トレーニング,新潟青陵大学紀要,第7号,177-186,2007.
- 6) 穴沢小百合,松山友子:わが国の看護基礎教育過程における基礎看護技術演習に関する研究の動向1991~2002年に発表された文献の分析,国立看護大学校研究紀要,第1号,54-64,2004.

資料1. 自己の課題シート

「自己の課題シート」

学籍番号

氏名

	自己の課題および達成のための学習方法	技術の達成状況	今後、必要とする自己の取り組み
基本技術演習		導尿及び膀胱留置カテーテル管理 4・3・2・1	
		静脈内採血 4・3・2・1	
		筋肉内注射 4・3・2・1	
		点滴静脈注射の管理 4・3・2・1	
総合技術演習		総合技術演習 4・3・2・1	

※ 技術の達成状況は、4「達成できた」、3「まあまあ達成できた」、2「あまり達成できなかった」、1「達成できなかった」として自己評価し、該当する番号に○をつけてください。

資料2. 演習前の自己の課題

シートの項目	カテゴリー	コードと記載件数	
演習前の自己の課題	対象に応じた対応	患者の優先順位や安全に配慮して援助を行なう 患者の状態や状況に応じて判断し、適切なケアを行なう 患者の安全や予測される事態を考え実施する ケアの重要度、必要度を比較し、優先順位をつける 複数の患者の状態や状況を把握し、必要な看護ケアを判断する 苦痛を最小限にできるようにする 患者とコミュニケーションをとり患者への心配りを忘れない 対象者にそったケアを行なう 患者の反応を見ながら行なう	<43> 20 5 5 4 4 2 1 1 1
	一連の看護行為の確実な実施	患者に声かけをし、安全、安楽に行なう 患者に処置の必要性や目的・方法を説明し、理解を得てから実施する 落ち着いて処置を行なう 施行中、施行後の異常の有無を確認し、必要な対処をとる 処置をスムーズに行なう 迅速にケアを行なう 動作の効率性を考える 臨機応変に行動できる 患者にとっての必要性を理解した上で技術を実施する ケアをおろそかにしないよう行動できる 自分のもてる力の活用 清潔操作などの復習をする	<18> 4 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1
	自己の安全を考慮した対応	自分も安全に行なう 自身の腰痛を予防するようにボディメカニクスを効果的に行なう	<2> 1 1

資料3. 課題達成のための学習方法

シート の内容	カテゴリー	コードと記載件数	
課題達成のための学習方法	自己の課題の明確化	グループメンバーとふりかえりをする 今まで学習してきたことを思い出し、確認しながら行なう 困難な状況下での自己の行動パターンを把握し、苦手なところを知る 技術を正確に行なう 課題を明確にする	<17> 8 3 3 2 1
	事前の学び	参考書、教科書を利用して一つ一つ確認する 事前にイメージトレーニングや物品の配置を考える その技術の必要性と根拠を考えながら学習する ベースになる筋肉内注射の練習をしておく	<4> 1 1 1 1
	修得する方法の明確化	ふりかえる中で、様々な場面での対処方法を修得する さまざまな訴えや現象に対する判断・行動について考えながら学ぶ 患者の状況、状態を正しく理解できるように考える力を身につける	<3> 1 1 1

資料4-1. 今後必要とする自己の取り組み【課題内容】

シート の項目	カテゴリー	コードと記載件数	
演習後の課題内容	複数の患者の把握と配慮	受け持ち患者のみでなく、他患者への配慮や状態の把握をする 他患者への対応時、受け持ち患者への配慮に欠けたので心配りを大切に する	<21> 20 1
	患者の立場にたった対応	ケアにあたっては、患者の立場に立って考え対応をする 優先順位は「自分にとって」ではなく、患者の立場にたって考える 看護師の緊張は患者に伝わるので、患者の前に立ったら自信を持って取 り組む 対象者中心のケアを行なえるようにする 患者の気持ちを考えて対応する 患者と向き合う時はしっかりと対応する	<12> 5 3 1 1 1 1
	一連の看護行為の確実な実施	清潔操作を正確に実施する 薬液を吸い上げる動作をすばやく行なえるようになる ケア実施中、患者の状態観察と適切な指示を行なう	<5> 3 1 1
	チームとしての連携・協力	看護師同士の連携(やりとり)をしっかりとる 看護師が病室にいる場合、何をしているか把握する 「チームで働く」意識をもち、一人で対処しようとせずチームで協力し 合う	<15> 8 5 2
	状況判断やよく考えた行動	予測的に行動する 患者が表す細かなサインを見落とさないようにする 広い視野と判断力が必要である	<4> 2 1 1
	看護師としての責任ある態度	信頼関係に影響するので、自分の発言に責任を持たなければならない 自分の仕事や患者に対して責任を持つ 自分の処置だけでいっぱいになるのではなく、周りを見る余裕を持てる ようになる 緊張するとミスが多くなるので落ち着いて処置できるようにする 薬液や注射針等の危険物だけでなく、全ての物の管理に責任を持つ	<10> 4 2 2 1 1

資料4-2. 今後必要とする自己の取り組み【具体的な取り組み】

シートの項目	カテゴリー	コードと記載件数	
具体的な取り組み	複数の患者の把握と配慮	病室全体の様子を見る、病室全体にアンテナを向ける 入室時は、患者一人ひとりの顔、状態を観察する習慣をもつ 退室時は、患者それぞれを確認するようにする 事前の情報を踏まえ優先順位をあらかじめつけておく 事前の情報をしっかり把握する	<14> 6 3 2 2 1
	患者の立場にたった対応	患者への説明を分かりやすく行なう 待たせる時、「ちょっと待ってください」ではなく、理由を説明し了解を得る 笑顔で対応する あせりや緊張は患者に伝わるので、落ち着いて一呼吸おいて冷静に行動する 患者が看護師に声をかけるには勇気がいること、患者には直ぐ返事をする 患者への挨拶やケアへの説明と同意は、ケアのその都度声をかけていく ベッド上の患者には負担や不安をつくらぬよう声をかけていく ベッド上の患者には安楽や苦痛を最小限にする方法を考えながらケアする	<18> 4 4 3 2 2 1 1 1
	一連の看護行為の確実な実施	5Rの確認を3回以上実施する 機材や薬品は、常に目の届く範囲に配置し直す 処置に入る時は、その場を長時間離れない 一旦場を離れて処置に戻った際、患者や薬剤を再度確認してから実施する 声を出して確認する 回数を重ねる中で手技を上達させたい 報告は指示書にサインをしてから行なう 報告では、(処置を実施したことだけでなく)患者の状態を報告する	<10> 2 2 1 1 1 1 1 1
	チームとしての連携・協力	看護師同士で協力し合えるようコミュニケーションをとる 困った時一人でも何とかしようとせず、周りの看護師の助けを受ける 患者にとっての優先順位を考えると、(必要に応じては)看護師の手を借りる 自分から声を出す	<15> 8 5 1 1
	状況判断やよく考えた行動	その場の状況に応じて、自分でできることと、今できないことを的確に判断する 現在の状況から、今何をしなければならぬかを判断する 自分で考える習慣をつける その都度、自分でふりかえをする (使用した尿器の片付けは、ワゴンに乗せるのではなく)、手に持って片付ける	<8> 4 1 1 1 1
	看護師としての責任ある態度	1処置1手洗いを心がけ、自分の安全を守っていく 不安なことや分からないことは先輩ナースに聞き、確認する 落ち着いて行動する	<7> 3 2 2

**A Nursing Skills Training for Graduating Students  
to Improve Practical Nursing Competency :  
Attainment in the Simulated Clinical Practice Based on the  
Analyses of a Check Sheet for Self-evaluation**

SHIMIZU Keiko, HAGIHARA Yuka, MURAMATU Terumi, OKUBO  
Hiromi, KOBAYASHI Tatsuko, HATAMOCHI Chieko, YOSHIDA  
Fumiko, KOHNO Yoshino, MATSUSHITA Yumiko

Keywords : Practical Nursing Competency , Nursing Skills Training for Graduating Students, Check Sheet for  
Self-evaluation